

## 地域景観の中での構造物に対する中学生の意識について

和歌山工業高等専門学校 学生会員 ○東谷 麻央  
同上 正会員 轟巻 峰夫

## 1. はじめに

近年, 地域住民の生活空間あるいは環境条件に対する意識向上が著しく, 社会基盤施設の整備においても自然の保全や美しい景観の創出に十分配慮することが事業計画上欠かせない条件となっている。

本研究は, 和歌山県中部の日高川町を対象として地域固有の景観が種々の構造物と調和する条件を探ることを大きな目的としているが, その端緒として構造物の有無によって景観の感じ方がどのように相違するかをアンケートを用いて検討を行った。

## 2. 研究方法

## 1) 検討対象とする 地域及び検討の視点

検討対象とする地域は和歌山県中部の日高川町とした。同町は県下の2級河川では最大流域面積を持つ日高川沿いの山間に位置し, 河川と山地を基本とした自然景観を有している。また, 町内には椿山ダムのような大規模な人口構造物があるうえ, 近年ではウィンドファームが山地稜線沿いに設置されている。

本研究では, 同町のような自然景観を有している住民が抱えている郷土景観への意識の中で, 高架橋やダムなどの社会基盤施設が, どのように感じられているかを調査することとした。その取りかかりとして, 慣れ親しんだ景観が変化した場合, 違和感を覚えるのはある意味当然であると考え, 幼いときから構造物を見ている若年の中学生の意識を調査することとした。

## 2) SD法によるアンケート調査

SD法は意味差分法とも呼ばれ人間の曖昧な感性を定量的に評価する際に, しばしば使用される。対象空間に対する個人の印象を測定し, 対象空間の意味構造やイメージを明らかにすることができる。

実施した調査内容は以下のとおりである。

## (1) 対象空間

日高川町周辺の景観を対象とし, 比較の為に構造物がある空間とない空間を抽出した。(表-1)。

## (2) 被験者

現在の日高川周辺に係わりが深い中学生と, 日高川周辺に係わりが少ない和歌山高専生を対象に5団体191人に調査協力を依頼した(表-2)。

## (3) アンケート方法

参考文献などから地域景観を表わすと思われる, 相反する形容詞対(「明るい⇔暗い」等)を18個あらかじめ選び, 対象空間の写真を被験者に配り, 5段階で評価してもらった(図-1)。

また, 被験者の景観に対する好みを調べるために「良い⇔悪い」という指標も加えた。

図-1 評定用紙の一例

表-1 対象空間

| 構造物がない景観 | 構造物がある景観 |
|----------|----------|
| ①上流      | ②ダム湖     |
| ③河畔林     | ④椿山ダム    |
| ⑤集落      | ⑥橋       |
| ⑦山       | ⑧風力発電    |
| ⑨道路      | ⑩高架橋     |

表-2 被験者内訳

| 団体名            | 被験者数(人) |
|----------------|---------|
| 中津中学校(2年,3年)   | 33      |
| 丹生中学校(2年,3年)   | 44      |
| 早蘇中学校(2年,3年)   | 20      |
| 美山中学校(2年,3年)   | 25      |
| 和歌山高専(1-D,3-D) | 69      |

キーワード 地域景観, SD法

連絡先 〒644-0023 和歌山県御坊市名田町野島 77 番地 和歌山工業高等専門学校 TEL 0738-29-8458

### 3. 結果と考察

アンケートによって得られた結果を以下に示す。

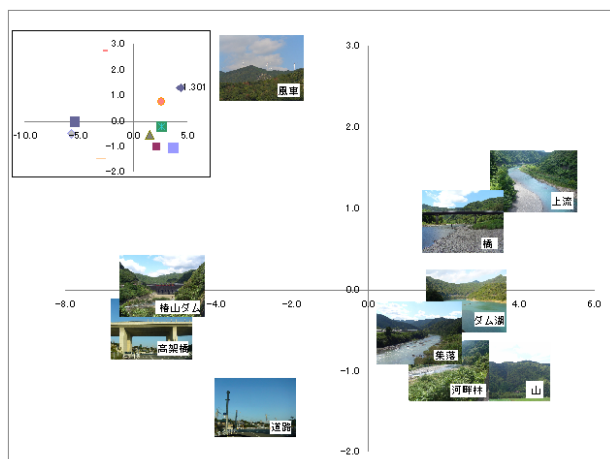


図-2 成分得点 (X: 第 1, Y: 第 2 主成分)

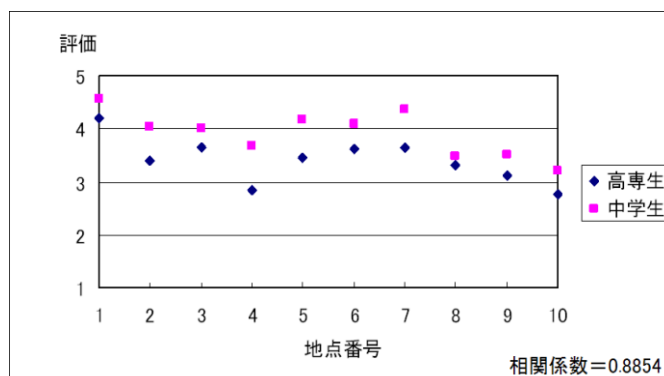


図-3 「良し悪し」の評価結果の比較

表-3 主成分分析の結果

| 固有値表    | 固有値    | 寄与率    | 累積寄与率   |
|---------|--------|--------|---------|
| 主成分No.1 | 14.011 | 77.84% | 77.84%  |
| 主成分No.2 | 1.468  | 8.16%  | 85.99%  |
| 主成分No.3 | 1.333  | 7.41%  | 93.40%  |
| 主成分No.4 | 0.634  | 3.52%  | 96.92%  |
| 主成分No.5 | 0.284  | 1.58%  | 98.50%  |
| 主成分No.6 | 0.152  | 0.84%  | 99.34%  |
| 主成分No.7 | 0.074  | 0.41%  | 99.75%  |
| 主成分No.8 | 0.036  | 0.20%  | 99.95%  |
| 主成分No.9 | 0.009  | 0.05%  | 100.00% |

#### (1) 主成分分析による感性意味空間の把握

SD 法で得られたデータを用いて主成分分析を行い、被験者が求める景観の意味空間の把握を行った結果、第 1 主成分“総合美”，第 2 主成分“清潔感”，第 3 主成分“居住できるか”の 3 つが抽出された。

また、表-3 の固有値が第 3 主成分までで累積寄与率が 93.4% であることから、このアンケートが信頼できる結果を得られているとわかった。第 2 主成分までの得点を計算した結果を、図-2 に示した。これから、構造物の割合が少ない空間の得点が高いことがわかった。

#### (2) 高専生との比較

図-3 から中学生は高専生よりも評価が高い傾向にあることがわかる。中学生は高専生よりも日高川周辺の景観に日常的に触れていることから、構造物が目に見えにくいためであると考察した。また、地点番号⑧の風車については、風車がこの 2・3 年の間に設置されたものであることから中学生の目に馴染んでおらず、高専生と評価が似通ったと考えた。

### 4. まとめ

本研究の成果としては以下のことが挙げられる。

- ・主成分分析の結果から学生が好む景観の要素を抽出し、第 1 主成分“総合美”，第 2 主成分“清潔感”，第 3 主成分“居住できるか”が得られた。
- ・ある種の条件がそろえば、構造物は時間の経過とともに風景に馴染み、地域景観として評価が高くなる傾向にあるという仮説が立てられた。

今後は仮説の立証のために地域の大人にもアンケートを実施し、詳しく景観の分析をしていく必要がある。

### 参考文献

- 1) 樋口忠彦 景観の構造 ランドスケープとしての日本の空間
- 2) 小浦久子 まとまりの景観デザイン
- 3) 石村貞夫 劉辰 多変量解析による環境統計学

### 謝辞

今回アンケートを実施するにあたって協力いただいた日高川町教育委員会、中津中学校、丹生中学校、早蘇る中学校、美山中学校、和歌山高専の皆様にご心から感謝の意を示します。